

特別活動・道徳の理論	2年・後期	2単位 30時間	准教授 堤ひろゆき
科目カテゴリー	教職科目	科目ナンバリング	37011252

1. 授業のねらい・概要

学校は教科のみを教える場ではなく、道徳に加えて特別活動といった教科外のカリキュラムが組み込まれている。本講義では、教育活動によって学校という場がどのような可能性をもちうるのかという観点から、学校教育における特別活動・道徳の意義と目的について解説する。学生が現代の社会状況やそのなかで学校教育が果たすべき役割、特別活動・道徳の教育課程上の位置づけや歴史的変遷などを把握したうえで、具体的な特別活動・道徳教育の方法論や今後の課題について考察できるようになることが本講義のねらいである。

2. 学修の到達目標

1. 特別活動および道徳教育の基礎概念と理論を学術的に通用する言語を用いて表現できる。(D-1)
2. 特別活動および道徳教育の歴史的変遷と方法論を学術的に通用する言語を用いて表現できる。
(D-1)
3. 特別活動および道徳教育の今後の課題について、理論と実践を学術的に通用する言語を用いて表現できる。(D-5)

3. 授業の進め方

レジュメおよび参考資料を配布し、基本的には講義形式で進めていく。また具体的な教育実践を扱った映像資料や文献などを紹介し、その内容について理解を深めたい。

【アクティブ・ラーニング実施の有無】

アクティブ・ラーニングとして、調査学習、グループワーク、対話・議論型授業を用いる。

【ICT活用の有無】

ICT活用の実施：メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーションの機会

4. 授業計画（講義）

回	授業内容	授業形態	事前事後学修（学修課題）	担当
1	特別活動とは何か	講義	予習：自分自身の小・中・高校時代の「特別活動」を可能な限り思い出し、内容をメモしておく。 復習：予習でメモした内容を、講義で扱った特別活動の規定に基づいて整理する。	堤ひろゆき
2	特別活動の目標	講義	予習：中学校学習指導要領の特別活動の章を一読しておく。 復習：講義で扱った重要語句に線を引きながら中学校学習指導要領の特別活動の章を再読し、内容を理解する。	堤

3	特別活動の歴史①：戦前編	講義	予習：教育史（特に日本）の昭和前期までの流れを思い出す（教育基礎論の歴史を扱った回の資料を読み直すなどするとよい）。 復習：戦前期の儀式の目的と特別活動の目的との違いを確認する。	堤
4	特別活動の歴史②：戦後編	講義	予習：戦後の学習指導要領の流れを確認する（教育課程論の授業資料を読み直すなどするとよい）。 復習：特別活動の変遷は複雑なので課程上の位置づけを変更理由に基づいて整理する。	堤
5	特別活動と他教科との関連性	講義	予習：前回までで扱った内容をふまえて自分自身の受けた教科教育を思い出し、メモを取る。 復習：講義内容を参考に、教科教育で特別活動の内容を関連させる工夫を考える。	堤
6	実践例の検討①：「混合教育」の実践	講義	予習：現在の特別支援教育とインクルーシブ教育について、公的組織のサイト等により調べる。 復習：講義で扱った実践の特徴を整理し、教員の視点から実践上の注意点を考える。	堤
7	実践例の検討②：「グループエンカウンター」	講義	予習：「構成的グループエンカウンター」について調べておく。 復習：講義で扱った実践を参考に、エンカウンターを用いた授業案を考える。	堤
8	学級づくりの方法	講義	予習：自分自身の学級の特徴を振り返り、教員の工夫と効果を考える。 復習：学級づくりのための働きかけを教員の視点から考え、具体的な授業案を考える。	堤
9	現代の道徳教育	講義	予習：学校での「掃除」を事例として扱うため、自分自身の掃除を思い出し、同様の効果を得られる活動はないか考える。 復習：道徳教育の問題点を考え、整理する。	堤
10	道徳教育の歴史①：戦前編	講義	予習：「教育勅語」を調べ、内容を一読する（インターネットですぐに出てくる訳語は原文の内容と異なる部分があるので、その違いを探すとわかりやすい）。 復習：なぜ戦前の道徳教育が変更される必要があったのか、理由を考える。	堤
11	道徳教育の歴史②：戦後編	講義	予習：道徳の教科化の流れを確認する。 復習：戦後の道徳教育の特徴を整理し、戦前と戦後の道徳教育の違いを考える。	堤

12	道徳教育の目標と内容	講義	予習： 中学校学習指導要領の道徳科の章を一読する。 復習： 重要語句を探しながら中学校学習指導要領の道徳科の章を再読する。	堤
13	道徳の授業計画	講義	予習： 自分の出身校の年間行事計画を探し、読んでおく。 復習： 予習で調べた年間行事計画と道徳教育との関係を考える。	堤
14	授業実践例の検討	講義	予習： インターネットで道徳科の指導案を探して読み、工夫してある点を自分なりに理解する。 復習： 自分で指導案を作成する際の工夫を考える。	堤
15	講義のまとめ	講義	予習： 発表の内容を準備する。 復習： 自分の発表を振り返り、他の参加者の発表から得られた気づきを言語化する。	堤

5. 成績評価の方法・基準

受講態度や講義への参加等の平常点（30%）および期末課題（70%）をもとに総合的に評価する。

評価対象物は、「2. 学修の到達目標」に示した達成状況を、ルーブリック評価表を基に、5段階評価で採点する。ルーブリック評価表に関する詳細は、講義内で別途説明する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：自作の資料を配付する。

参考文献：山口満，安井一郎編（2010）『特別活動と人間形成』学文社

木村元ほか（2009）『教育学をつかむ』有斐閣

村井実（1990）『道徳は教えられるか』国土社

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

配布資料および参考文献の読解（1時間30分程度）。さらに、毎日15分程度これまでの講義内容と関連するニュースを探し、読んでおく。期末課題や発表資料作成にむけての準備（2時間程度）。

8. 受講上の留意事項

明確な目的意識をもち、教職に就くことを強く希望する学生の受講を望む。

9. 課題に対するフィードバックの方法

各回の冒頭にレポートへの講評を行い、グループワーク等の直後にもコメントを行う。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

養護教諭第一種免許状取得のための必修科目である。

11. 該当する本授業は、以下の実務経験を活かして実施される

該当しない。